

スポーツ博物館将来構想検討会議（第1回） 議事要旨

日 時：平成30年8月1日（水） 14：00～15：45

場 所：日本スポーツ振興センター本部事務所 大会議室1

出席者：【委員】 黒川座長、井上座長代理、泉委員（代理：河内氏）、真田委員、寺澤委員、前田委員、山下委員、

【オブザーバー】 スポーツ庁 鈴木政策課長、JOC 松丸常務理事、JPC 中森事務局長

【JSC】大東理事長、小菅理事、今泉理事、河村スポーツ博物館館長 ほか関係職員

議 事：

1. 座長の互選等

JSC スポーツ博物館将来構想検討会議設置要綱第3条第2項により座長に黒川委員が、同第3条第4項により座長代理に井上委員が選任。

2. 議事公表の確認

座長から、本会議の議事は非公開とし、審議のまとめを行った後、審議のまとめ 及び各回の会議資料、議事要旨を JSC のホームページで公表することの確認があり了承。

3. 本会議の目的・役割等について

事務局から資料2～5について説明し、質疑応答。

4. JSC がスポーツ博物館を設置する意義等について

事務局から資料6～8について説明し、質疑応答。

[3及び4に関する委員からの主な意見]

JSC がスポーツ博物館を設置する意義

- 日本のスポーツ界のためにご尽力された秩父宮様のご遺志に報いるためにも、博物館がスポーツの拠点になればと思う。
- 博物館の使命は社会教育の推進。収益性の側面からすると、民営に委ねることは考えられるが、博物館の使命から離れてしまう可能性もある。行政の役目を果たしていくべき。
- 他の博物館との棲み分けは必要。日本で唯一の総合スポーツ博物館・図書館として、スポーツに関連する日本のナショナルセンターの役割を果たしていく必要がある。
- スポーツ博物館に行けば、日本のスポーツの歴史の大まかなことが分かる資料が見られるため大変貴重。今年度に入ってから、資料の貸出等を休止しスポーツ資料が活用できない状態は遺憾。海外でも日本のスポーツ史への関心が高まっており、日本のスポーツの資料をもっと知りたい声があるが、スポーツ博物館を紹介することができない状況である。

コンセプト（趣旨・目的・役割）

- オリンピックを2回開催する東京だからこそ、世界に開かれた、少なくともアジアに開かれた博物館

にしていくべきではないかと思う。

- スポーツ博物館に来ればアジアのことも含めてスポーツのことがすべて理解でき、資料も残っていることが大事。
- 博物館が単体で全てのニーズを満足させることは難しい。ミュージアム同士がネットワークを作って、役割分担をして工夫していくことが必要。それぞれの館のコンセプトを明確化していくべき。
- 博物館の敷居をいかに下げるか。心のバリアフリー化を目指し、行って楽しい博物館であるべき。
- 「スポーツは、世界共通の人類の文化である。」という理念をしっかりと持つことが必要。スポーツ博物館に来ればスポーツのことが何でもわかるといったものにすべき。
- 長い歴史がある、ということだけでは衰退してしまうこともあるので、時代に合ったスポーツ文化・芸術を作っていくべき。その意味でも、スポーツ博物館に新しい機能が入れば良い。
- 保存・収集も大事だが、例えば富山県美術館は、屋上に子供たちが体を動かせる遊具などが置いてあり、美術館の展示を見なくてもそのまま屋上に行けて、美術館に来ることが目的でない人も来ている。多くの人が来るようにするためには、従来の博物館のイメージの払拭が必要。

事業内容

- メダルなど、実物資料を所蔵していくことが大事。
- 一点物の資料や、衣類など多様なもの資料を扱うことは大変。資料を「見せる」、「使う」だけでなく、資料のメンテナンスを行う「保存管理」の機能を入れると良い。「デジタルアーカイブ」は利用と保存の両方に活かせるが、やるには、人もお金もかかり組織としての覚悟が必要。
- 日本体育協会（現在の日本スポーツ協会）の百年史を作る際、昔のことが分かる秩父宮記念スポーツ博物館の図書館資料が非常に役立った。今後、スポーツ博物館が拠点として、100年後、200年後も使われるようになればいい。
- スポーツ博物館は、訪れた人がスポーツを「やりたくなる」、「こうやったらできる」、「楽しくできる」ことを紹介する形でやっていけば良い。
- 「資料の収集、保存」だけではなく、資料を公開することで、その資料のもつ価値を一般の方に理解していただく。この価値観の共有が一番大事。
- 資料の収集を続け、様々なテーマを設けて展示することが重要。日本独自の様々なテーマ設定ができる。日本人の身体観念である「祭り」や、災害や戦争などからの社会の復興にスポーツがどう関わってきたか、という展示をすれば、新しいスポーツの価値を示せる。日本がスポーツに抱いてきた価値を改めて発見でき、スポーツの素晴らしさは過去の資料を見ることで引き出せる。
- 博物館に来て、古いものがあるだけでは、特に小さな子供は喜ばない。祖父母と孫の組合せで体験できるものなど、新しい展示を取り入れるのが良い。
- 競技スポーツだけではなく、運動会など生活に密着しているスポーツも題材にあって良い。
- イスラム圏では女性が肌を見せられないなど、スポーツを通して世界の国や人がどのように考えているのかという視点も加えると、よりスポーツ博物館としての価値が高まる。
- インターネットを通じて資料を提供すると、スポーツ博物館をよく知らない人にも利用してもらえるチャンスが広がる。ネットワークはいろいろあり、団体のネットワークだけでなく、展示等を目的と

した借用による資料のネットワーク、研修やイベントによる人のネットワークが作れる仕組みなどを盛り込むと、ネットワークがきめ細やかなものになる。

- 独立行政法人である以上は、入場者数が一つの評価となる。人が集まる場所の観点が必要。人が来る、集まるという観点で設置エリアを考えてはどうか。
- 国（JSC）でなければいけないのか。民間ベースで運用する仕組みも検討の一つ。
- 一人でも多くの方に関心を持ってもらえるような施設運営をしていく必要がある。国の予算だと資金も限られる。直営だと厳しいので、自由度を上げるために民間に委ねることも検討の一つ。大きな枠を JSC が見ていけばよい。
- 博物館は、入るのに敷居が高いイメージがある。入りたくなるような要素、例えばレストランの併設などの検討をすると良い。
- 休館前のスポーツ博物館の入場者は、平成 25 年度（約 28,000 人）を除くととても少ない。平成 25 年度が当たり前ぐらいで、それ以上を目指さなければならない。
- 過去に実施していたスタジアムツアーは、自分自身参加してみたいと思うし、さらにコンテンツをより良くしていくことも必要。

その他

- 出席委員より、全日本博物館学会/日本展示学会/日本ミュージアム・マネジメント学会が本年 7 月 31 日付で「秩父宮記念スポーツ博物館・図書館に関する要望書」を文部科学大臣とスポーツ庁長官に提出しており、参考資料として配布したいとの発言があり、座長了解のもと資料配布。